

2021 年度卒業式式辞

中京大学で学び、本日、ご卒業を迎えられた皆さんに、心よりお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

今日までお子さまを支えてこられたご家族の皆さま方に、お慶びを申し上げます。教育、指導にあたってこられた教職員の皆さまにも、深く感謝いたします。

中京大学は 1954 年（昭和 29 年）に中京短期大学として開学し、その 2 年後に四年制大学となりました。校訓「真剣味」、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を掲げ、68 年にわたって数多くの卒業生を社会に送り出してきました。学部卒業生と大学院修了生の累計は既に 14 万人を超えております。皆さんは今後、さまざまな分野で活躍されている先輩たちと出会い、言葉を交わす機会があるでしょう。ぜひ、中京大学の同窓として絆を深め、お互いを高め合っていてほしいと思います。

同窓といえば、昨年夏の東京オリンピック、さらに今年 2 月の北京冬季オリンピックでは、本学の在学学生、卒業生が素晴らしい活躍を見せてくれました。

北京では、フィギュアスケートの宇野昌磨選手と、三浦璃来選手・木原龍一選手のペア、フリースタイルスキー男子モーグルの堀島行真選手がいずれも銅メダルを獲得し、スピードスケート・ショートトラックの吉永一貴選手らもよく健闘を致しました。また夏の東京五輪で、オマーン出身のアルー・アダウィ・イサ選手が母国の競泳の代表として出場し、開会式でオマーンの旗手を務めたことも非常に印象深い出来事でした。選手たちの活躍は、ルールを守る、ベストを尽くす、チームワークをつくる、相手に敬意を持つ、という建学の精神の四大綱を体現したものといえ、本当にうれしい限りです。

さて、皆さんがこれから歩んでいこうとする社会は今、極めて困難な問題に直面しています。

まず取り上げなければならないのは、昨今のウクライナ情勢です。本格的な武力衝突が始まって既に 3 週間が経過し、国際社会が厳しい目を注いでいるにもかかわらず、ウクライナでは民間人の犠牲者が多数に上っています。ウクライナから国外への避難民も 300 万人を超えたと伝えられています。何の罪もない人々の日常が突然奪われていくことに対し、本当に心が痛むと同時に強い憤りを感じるのは、皆さんも同様であろうと思います。

戦禍がこれ以上拡大し、生命の安全や日々の生活を脅かされる人々がさらに増えることは、何としても避けなければなりません。一日も早く対話によって事態が収束し、緊張緩和が図られることを祈るばかりです。

ウクライナ情勢は、国際経済にも重く暗い影を投げかけています。ロシアはヨーロッパ向けを中心に原油や天然ガスを供給してきた資源大国であり、アメリ

かなどによる制裁措置の影響もあって石油・ガスの国際市況は大きく跳ね上がりました。さらに小麦の価格も高騰しています。エネルギー資源や穀物市場の動向は、ガソリンやパン、麺類などの値上がり直結し、私たちの家計にもじわじわと響いてくるのは間違いありません。

一方で、欧米や国内の企業では業種を問わず、ロシア市場やロシア関連ビジネスからの撤退表明が相次いでおり、グローバル経済の収縮要因となるのは避けられない見通しです。IMF（国際通貨基金）が1月に公表した世界経済見通しでは、今年の世界経済の成長率は昨年を下回る4.4%と予測されていますが、ウクライナ情勢の成り行き次第では、かなり大幅な下方修正を余儀なくされる可能性もあろうかと考えます。

ヨーロッパにおけるパワーバランスの不安定化が、東アジアにどのような影響を及ぼすのかも大いに懸念されるところです。近年、覇権主義的な傾向を強めている中国、さらには北朝鮮の動向についても、日本としては重大な関心をもって見守っていく必要があるでしょう。

もう一つの問題は、感染拡大が始まって2年が経過した新型コロナウイルスです。WHO（世界保健機関）の統計によると、全世界における感染者の累計は4億6570万人、死者は600万人を超え、なお増加を続けています。

本学においてもこの2年間は、感染拡大を防ぐため、オンライン授業の導入をはじめとする最大限の対策を講じてきました。皆さんにとっては、友人との会話や飲食にも気を遣い、クラブやサークル活動を行うにも制約を受けることとなり、折角のキャンパス生活なのに、と残念に感じられた面もあったことでしょう。この場であらためて、感染拡大防止への協力に感謝を申し上げたいと思います。

国内では現在、3回目のワクチン接種が進む一方、飲み薬の実用化も急がれておりますが、今後も変異株が現れる可能性は高く、収束の見通しは残念ながら不透明と言わざるを得ません。そして、新型コロナによってもたらされた社会の変容は、コロナ以前と同じ状態に戻ることはありません。

オンライン会議やテレワークの定着といったビジネスシーンの変化は言うまでもありませんが、スポーツやアートといった趣味の分野、あるいは余暇の過ごし方などにおいても、必要以上の大人数での接触を避け、オンラインやバーチャルがより重視される方向に進むと予想されます。しかしながら、人間同士の直接のコミュニケーションも決して軽視されるべきではありません。従ってこの先、さまざまな分野において、いかにそのバランスのとれた仕組みを構築するかが課題になってこようと考えます。

ウクライナや新型コロナに関心が向きがちですが、地球環境問題も忘れてはなりません。国内においても、気候変動による豪雨や災害の多発、動植物の生態

系の変化など、既にその影響ははっきりと目に見え始めており、対策は待ったなしです。政府は2050年に温室効果ガスの排出をゼロにするとの方針を表明していますが、具体的な取り組みはこれからです。再生可能エネルギーの利用をいかに拡充し、脱炭素を推進していくのか。早急に見定めていかねばなりません。

さまざまな難題を抱えつつ、社会は極めて重大な転換期に突入しました。日本においては人口減少の加速という要素も考慮していかねばなりません。歴史に学びつつ、その一方で、既存の枠組みにとらわれずに大胆に発想し、実行に移していく。今求められているのはそうした力です。

本学は、教育目標として「自ら考え、行動することのできる、しなやかな知識人の育成」を掲げています。先行きが見通せない今の時代であるからこそ、本学を巣立っていく皆さんの、若く柔軟な感性に大いに期待したいと考えます。

梅村学園は来るべき2023年、来年に創立100周年を迎えます。中京大学は、再来年の2024年が開学70周年にあたります。既に、100周年を新たなスタートと位置付け、その先10年の方向性を示す長期ビジョン「UMEMURA VISION 2033」を定めたところですが、今後は、それを具体化するための新たな長期計画の策定を進めます。梅村学園・中京大学はこれからも、社会の課題を自らの問題としてとらえ、社会に貢献していくことのできる人材を送り出していけるよう、全力で取り組んでまいります。

皆さんは卒業後もぜひ、母校に思いを抱き、つながりを持ち続けていただくようお願いいたします。そして多くの友人をつくり、広く学びを続け、一層大きく飛躍して行ってください。常に校訓「真剣味」、建学の精神「学術とスポーツの真剣味の殿堂たれ」を胸に、チャレンジ精神と自信をもって、堂々と進んで行ってください。

本日はご卒業、誠におめでとうございます。

2022年3月19日

中京大学学長
梅村清英